

チームごっくんニュースレター

脳血管疾患と嚥下障害について

脳血管疾患は嚥下障害を起こす代表的な疾患です。脳血管疾患は急性期に嚥下障害の頻度が高く、症状が変化するので注意が必要です。脳梗塞の急性期では、20～50%に嚥下障害が認められることが報告されています。

脳血管疾患で生じる嚥下障害は障害部位によって球麻痺と仮性球麻痺に分けられます。

球麻痺	仮性球麻痺
延髄の嚥下中枢に障害 嚥下反射：消失～減弱 高次脳機能：なし その他：舌の萎縮 嚔声	大脳皮質 中脳 橋に障害 嚥下反射：残存する（飲み込む筋力の低下、協調性の低下あり） 高次脳機能：多彩な症状 その他：軟口蓋反射消失

脳梗塞など脳血管疾患により脳がダメージを負うと、脳からの指令が正常に出ないため、食べ物を口に入れても喉の筋肉をスムーズに動かすことができなくなります。また脳梗塞によって運動をコントロールする神経が損傷すると、その神経が支配していた筋肉の動きも悪くなります。

嚥下困難に陥る最大の原因：脳梗塞によって飲み込みに関する神経が障害され、咽頭部や喉頭部の筋肉に麻痺が出現することである。脳梗塞や脳出血などによる脳へのダメージは嚥下障害の最大のリスクとも言えます。

脳出血	脳梗塞
脳内出血 クモ膜下出血	アテローム血栓性脳梗塞 ラクナ梗塞 脳梗塞 静脈梗塞 出血性脳梗塞

